

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702289		
法人名	九州運輸建設株式会社		
事業所名	グループホーム ふくじゅそう		
所在地	〒807-0801福岡県北九州市八幡西区本城4丁目7-46 TEL093-603-8770		
自己評価作成日	平成23年10月11日	評価結果確定日	平成23年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事に積極的に参加している。運動会では競技に出たり、夏祭り(夜の外出)では地域の方とともに盆踊りに参加している。外出行事では必ず手作り弁当を持参し、ご家族の方々にも参加して頂き楽しんでいる。中庭でランチやバーベキューをしたり、外出に出かけたりと気分転換を図っている。ご家族が来所時気軽に昼食を利用者様と一緒に頂ける雰囲気づくりをしているので、コミュニケーションがとれている。利用者様の思い出のアルバム作りをして、ご家族に差し上げている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふくじゅそう」は、住み慣れた地域の中で、これからの人生を楽しく過ごせるための支援を、家族や地域住民の協力を得て、実現するために開設したグループホームである。管理者が長年住み慣れた地域で、知人や協力者も多く、デイサービス併設の2ユニットは、明るい雰囲気、いつでも訪問出来る雰囲気である。家族満足度を取り入れたモニタリングは、家族と職員が時間をかけて話し合い、利用者が満足できるプランに仕上げ、信頼関係は深いものがある。特に、協力医療機関の主治医による定期的な往診と、看護師の的確な判断で、充実した医療連携体制を構築し、利用者は、日々の暮らしを安心して過ごすことが出来ている。また、利用者の残存能力を低下させないための生活リハビリは、効果的で、自立支援に向けた取り組みと合わせ、利用者の自信回復に繋げている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年12月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの入り口に理念を掲げ、いつでも確認できるようにしている。毎朝申し送りにて唱和している。	「利用者お一人お一人が持つ力を十分に発揮しながら自分らしく、笑顔あふれる穏やかな日々が送れるように支援します」という、ふくじゅそう独自の理念を職員全員で作り、毎朝唱和し、理解して、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4つの自治区と交流を図り、行事の参加・出演・模擬店出店など行っている。散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、作物のおすそ分けを頂いたり、お返ししたりなど交流している。	管理者の地元でもあることから、地域との結びつきは強く、地域の運動会、敬老会、文化祭に参加し、かき氷、焼き鳥等の模擬店を出店したり、ホームの夏祭り、クリスマス会に家族や関係者に参加してもらう等、地域と活発な交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で地域の行事(盆踊り・夏祭り・敬老会・文化祭)に積極的に参加しており、地域の高齢者が困っていること、悩んでいることがあればいつでも相談に応じる旨を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開き、ホームの状況・事故報告やサービスについて提案するなど、意見交換を行い地域や家族の方に理解して頂けるように努めている。季節行事を生かした内容も盛り込んでいる。	会議は、2ヶ月毎に開催し、毎回多くの家族の参加があり、報告だけの会議にならないよう、夏祭りや避難訓練等を同時に行い、中身の充実した会議となっている。会議の中で出された質問については検討し、次回の会議で回答し、反映できる意見については、取り入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上などで不明な点は、市担当者に相談したり、包括支援センターに訪問し、空き情報や相談・指導を受けたりして連携をとっている。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状を理解してもらっている。管理者は、行政窓口に出向き、質問や相談を行い、アドバイスをもらう等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外研修に積極的に参加している。ホーム内研修でも学習・検討し、「声掛けによる拘束などが無いかなどその都度討議している。拘束の内容をプリントで貼り、自分の振る舞いを確認するように努めている。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、外部、内部研修で学び、検討しながら意識付けをし、利用者が拘束を受ける事による弊害を理解して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加している。ホーム内研修の折、報告をしている。虐待を受けたり、見過ごしたりするような不透明さはない。利用者に対する声かけや言葉遣いに気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は知識として資料を回覧して、学んでいる。社外講習会に参加した職員はホーム内で研修報告を行い、全員が理解できるように取り組んでいる。年に一度ホーム内研修としてカリキュラムされている。	現在2名の該当者がいる。職員は、研修会に参加し、理解を得て、利用者、家族が制度を必要とする時、説明や橋渡しができるように準備をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に2～3度面接の場を持ち、本人及び家族の意見等を聞きながら説明を行っている(退居時も同様)。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	館内に意見箱を設けている。また家族などの面会時に必ず声掛けをするようにしている。時々家族からの苦情や要望を聞くことがある。地域運営推進会議でも意見を聞くように努めている。	玄関に意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲示している。運営推進会議、行事の後に家族会を開き、家族の持つ共通の悩みや心配事を話し合い、家族同士の信頼関係も芽生えてきている。また、出された意見や要望をホーム運営に反映できる体制を整えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回会議を行い、意見や提案を検討し実践している。	月2回、職員会議を開催し、職員は活発に意見を出し合っている。また、年1回の個人面談を行なう等、職員一人ひとりの意見を聴きだす取り組みを通じて、出された意見はできるだけ反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は各自で向上心を持って、職務についている、運営者にも理解してもらえるように日頃から伝えている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用については、性別や年齢は不問としている。面接の際には、認知症のケアに求められる素質を考慮し採用している。	職員の採用は、人間性や意欲を優先し、年齢、性別等制限はしていない。また、ロッカーや畳敷きの休憩室を用意し、リフレッシュしながら仕事に取り組める体制がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育・啓発活動を年1回計画し実施している。グループホームでの人権教育では認知症への理解が第一であるので職員が日頃から意識し、倫理観を持って対応するように心がけており、指導している、	年1回、人権に関する研修会を行い、職員に、利用者の人権尊重について説明し、理解を深め、常日頃から意識しながら対応するよう心がけ、啓発活動に繋げている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会や社外研修などへの参加を実施している。勤務中は職員の経験や習熟度に応じた学びの機会としてともに考え、討議・助言したり、お互いの資格・向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、多様な意見を聞いてサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず、本人および家族と面接し、細かな情報収集をしている。入居時に本人が安心して過ごされるように職員間でも共通理解し、本人に対しての対応を検討している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の際、これまでの状況や現在の思いを時間をかけて伺っている。本人や家族の都合に合わせて、面接の頻度や内容を調整している。その中で家族にとっての大きな思いをくみ取る努力をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に利用者の状態、家族の意見を伺っている。また他サービス担当者やケアマネジャーと相談し、その方にとってグループホームでの介護が最も適しているのかを見極めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自主性を尊重しながら共有の時間をつくっている。自然体の会話など関わりをもつことで信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の近況報告や家族からの意見を大切にしてい中で、本人がより良い暮らしができるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との会話の中で、昔を懐かしんで頂いたり、年賀状を送り、なじみの人とのコミュニケーションを図って頂いたりしている。	職員は、利用者に寄り添い、昔話等の中から思いを聞きだし、家族と相談しながら、出来るだけその思いを大切に、納骨堂や墓参り、デパートでの買い物等、実現できるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の介入なく利用者同士でレクリエーションを行ったり、自然体で利用者同士でバルコニーでひなたぼっこなどを楽しまれている。利用者のなかで、相談役の方が確立されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの信頼関係を持ちながら、場合によってアドバイスなどの支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と共有の時間をつくり、表情や言葉からリサーチしている。検討する時は自己決定を優先して考えている。	職員は、利用者とゆっくり過ごす時間を大切に、その中で利用者の思いを把握するために言葉や表情を見逃さないよう心がけている。気づきを記録し、家族と相談し、本人本位に検討しながら、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活スタイルを少しでも継続できるように面接をし、スタッフ間で共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課計画表を作成している。心身状態などは日頃から看護師と協力し、様子観察している。必要時かかりつけ医に相談する。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者とのかわりの中で、気づいたことを話し合い、介護計画に反映させている。家族からの意見なども大切に計画にしている。	カンファレンスやモニタリングに家族に出来るだけ参加してもらい、要望を聴き取り、利用者や家族の希望に副える介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態に変化があった場合は、常に家族と連絡をとりながらその都度、介護計画の見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から、利用者の様子を観察し、スタッフ間でどう実践するか話し合い、役立てている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接するデイサービスの催しへの参加や中庭でのバーベキューなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや運動会に参加している。火災時の避難訓練に家族や地域の方も参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の意向を取り入れている。かかりつけ医以外では、書面で利用者の状況を記入し、必要に応じて情報を提供するようにしている。	協力医療機関と連携し、主治医による定期的な往診と、緊急時の医療連携体制を確立し、24時間安心して過ごせるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がケアマネジャーで常勤しており、主に医療活用の支援を行っている。また、協力病院にも日頃から相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、状況や情報を医療機関より聞き、把握に努め、早期退院に向けて病院や家族と話し合いを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族の意向を聞き、医療機関と連携をとり、本人の状態に応じ、適切な処置が受けられるよう医師の指示のもと、ホームでの生活が継続できるように支援している。	重度化や看取りに向けた指針を作成し、ホームで、できる事できない事を明確にしている。また、利用者が安心して暮らせる場所の確保と、看取り介護に向けた、家族との話し合いや確認等が日常的にできる体制がある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内及び併設しているデイサービスにも看護師がおり、常に連携をとって緊急時に備えている。職員は応急手当や初期対応の訓練を受けている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(消防隊の協力も含む)、夜間を想定し利用者とともに避難訓練を行い、近隣住民や家族の方にも参加して頂いている。毎日申し送り時に火災時避難確認、利用者急変時対応を唱和、指さし確認している。	年1回は消防署の協力を得て、1回は事業所独自で、地域の方や家族に参加してもらい、夜間を想定した避難訓練を実施している。また、非常災害時のマニュアルを用意し、毎朝唱和し、いざという時に落ち着いて行動できるよう備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活環境や性格などを把握して、その人に合わせた言葉かけや対応を行っている。	職員は、穏やかな気持ちで利用者に寄り添い、優しい声かけ、対応で、利用者のプライドを傷つけない介護サービスを実践している。また、個人記録は人目に触れない場所に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遊びの内容や、食事時間の調整など利用者の希望を聞いたり、気分に合わせていたりしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の生活、暮らしに関しては、事故の危険性がある場合を除いては、自由に過ごして頂き見守っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	靴の購入の際に希望の色や形を聞いたり、理美容サービスの際には髪型の好みを聞き、希望に応えられるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂くために食事前に口腔体操や食事に関する話をするなどをしている。食事後にお互いの食器をまとめたり、トレーやテーブルを拭いてもともに片づけを行っている。	残存能力に合わせて、配膳、お盆拭き等をしてもらい、食事の前にはしっかり口腔体操を行い、食事を美味しくしっかりと摂れるように努めている。時々出かける外食や中庭でのバーベキューは利用者にとって大きな楽しみになっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量は一人一人にあったものとしている。むせやのどに詰まる可能性のある利用者については、ミキサーやキザミ食にして提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に対して、声掛けまたは介助にて口腔ケアを実施している。義歯は週2回消毒の援助を行っている。週に1回、希望者は歯科往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ類、布パンツ、パットを使用するなど時間帯によって、おむつの種類を使い分けている。入居者の状況や兆候を把握しながら、トイレ誘導を行っている。	管理者、職員は、排泄の自立支援に力を入れている。職員は、利用者の排泄パターンや習慣を把握し、優しい声かけやさりげない誘導で排泄の自立に向けて取り組み、日中、利用者のほとんどが布おむつで過ごしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分にすることと、体を動かすことの取り組みをしている。繊維質の食べ物や乳製品(ヨーグルトなど)を取り入れた食事を提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日、午前・午後と入浴タイムがあり、ゆっくりと入浴を楽しむことができるように支援している。	入浴は週3回であるが、利用者の状態や希望に応じて、いつでも入れる支援体制である。また、入浴を拒否する利用者に対しては、タイミングをずらしたり、職員が交代で声を掛け合いながら、入浴出来るよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は利用者の活動リズムに合った支援をしている。今までの生活リズムを崩さず、昼寝をされる方はされている。ほとんどの方は良眠されており、時に夜間に片づけを始めて眠れない方がいても習慣的ではない。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録と一緒に薬の効能書もファイルしていつでも確認できるようにしている。また配薬は誤薬がないように、三度確認している。服薬のチェック表を記入している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業に対して、役割を担っていただいている。遊びの中で、紙芝居の読み聞かせをして頂く方や、先生役のようにことわざ遊びなど率先して頂く方がいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は特別な事情がない限り実施している。買い物外出は声掛けをして、希望がある方は同行している。ご家族と墓参り、外食なども楽しんで頂いている。	散歩、買い物、外食、花見等、利用者のその日の体調、気分に配慮しながら外出の支援をしている。また、家族と相談しながら墓参り等の支援もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては買い物の時などレジにて支払をして頂いている。個人的には、本人や家族が希望されるのであれば所持して頂けるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を使う支援を行う、家族から等の手紙や贈り物に対して、電話や手紙での返事を送っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂の天井は吹き抜けて明るく、広々とした空間になっている。窓の外には、テラスが設置しているので、テラスでの食事をすることができる。	高い天井の天窗から降り注ぐ光は温かく、開放的でゆったりとした家庭的な空間である。居間から続く日当たりの良い広いバルコニーには椅子が置かれ、利用者が寛ぐ姿が見られた。また、2ユニットで囲む中庭では、パーベキューをしたり、お弁当を食べたり、外気に触れ季節を感じながら過ごせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先やテラスには利用者が思い思いの時間を過ごせるようにベンチが置かれている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や飾り、家族もゆっくり過ごされるようにソファやテーブル等を自由に置かれている。ベッドを使わずに、慣れている布団が使われている方もいる。	居室は、家族と相談しながら、利用者の馴染みの物や使い慣れた物を持ち込み、利用者が落ち着いた気持ちで過ごすことができるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ内に手すりを設置し、夜間は居室内移動時に手元・足元が見える明るさにしている。床は滑りにくい材質でバリアフリーとなっている。一緒に暮らしながらより安全に生活ができるように改善している。		